MUSCLE SUIT Every

# 介護を長く続けられる仕事に

Case Study Interview

導入事例

## 社会福祉法人 友愛十字会 砧ホーム様

［ 介護・医療 ］

導入の決め手は「電力不要」「装着のしやすさ」「丈夫さ」

介助を受ける方1人1人に、つねに質の高いケアを実現

## POINT
- ポイント -

- シフト人数の少ない夜勤時 排泄介助は1～2時間通しでおこなうこともあり
- 長くこの仕事を続けられるという安心感
- スタッフたちがマッスルスーツを十分活用できる環境整備

**Q. 導入された経緯を教えてください。**

人材の確保は当ホームにとっても大きな課題で、「できるだけ負荷の少ない介護の実現」を模索していく中で、マッスルスーツに出会いました。人の生活が道具によって進化してきたことから、介護という仕事も道具によって進化していくべき、と考えていました。

**Q. 職場ではどんな課題があったのでしょうか?**

シフト人数の特に少ない夜勤時は、1～2時間くらい通しで排泄介助を行うこともあり、利用者をケアしながら中腰姿勢のまま5分～10分同じ姿勢を保たなければいけないときもあります。そうした介護に必要な動きや体勢そのものが腰を痛める原因になっていて、多くの介護現場で共通する悩みになっています。この仕事は、一度身体を痛めてしまうとなかなか仕事を続けるのは難しく、腰痛がきっかけでやむなく離職される方が多いのが現状です。

**Q. 実際に導入されて、どのような効果がありましたか?**

全体的に利用者様1人1人に対するケアの質が上がりました。マッスルスーツを使うと体への負担が減っていることが実感できるので、余裕を持って介助ができ、その結果、使っている職員もそうですが、介助を受ける利用者の方々も安心感を持ってもらえるようになったように思います。

**Q. 今後、どのように活用していきたいですか?**

介護職員はみんな志を持って入職してくれますが、やはり体力的な面で不安を抱えている方が多いのが現実です。その不安を払拭するためにもマッスルスーツのような機器を積極的に活用していきたいと考えています。装着型の移乗支援ロボット全般に言えることですが、『装着の仕方』によって、その後の活用の運命が大きく左右されます。導入する際は装着の仕方について十分レクチャーを受けることと、使用者の体格に合ったサイズを選択することが重要だと実感しています。スタッフたちが十分活用できる環境を整備して、誇りを持って長く働ける魅力的な環境をつくっていきたいと思っています。

### 介護・医療 での主なマッスルスーツ活躍シーン

1. 車いすから椅子、ベッド、便座などへの移乗介助
2. 排泄介護やおむつ交換
3. 浴槽への移動洗身・洗髪・衣類着脱などの入浴介護
4. 体位交換
5. ベッドメイキング

### Interviewee

社会福祉法人 友愛十字会
砧ホーム
施設長
鈴木健太様

©2021 INNOPHYS CO., LTD. All rights reserved　記載事項は予告なく変更される場合があります。内容の一部または全部を INNOPHYS CO., LTD. の許可なく使用・複製することはできません。マッスルスーツ ®、INNOPHYS は INNOPHYS CO., LTD. の登録商標です。その他の記載のブランド、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。